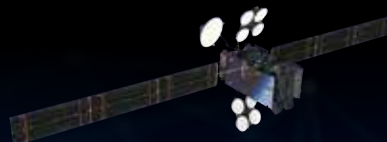




 ***SKY Perfect JSAT Group***
Company Profile



スカパーJSATグループミッション

Space for your Smile

不安が「安心」にかわる社会へ
不便が「快適」にかわる生活へ
好きが「大好き」にかわる人生へ

Space for your Smileには、私たちの目指す世界が描かれています。
宇宙も、空も、海も、陸も、家族が集うリビングも、ひとりの自由な場所も、
これらすべてのSpaceが笑顔で満たされるように。
日常のちょっとした幸せから、まだ見ぬ未来の幸せまで、
ひとりひとりの明日がよりよい日になっていく、そんな世界を創りつづけます。

At a Glance

(2020年3月31日現在)

スカパー!加入件数


約 **317** 万件

2019年度連結営業収益


1,395 億円

2020年度連結業績予想


連結営業収益
1,400 億円


親会社株主に帰属する当期純利益
80 億円

衛星保有数


19 機
※2020年6月30日現在



スカパーJSATグループ「プラン2020+」のもと、 企業価値のさらなる向上を図ります。

当社は設立以来、宇宙事業・メディア事業を基盤としたサービスを提供する、日本で唯一の企業としてお客様に新しい価値を提供し続けてまいりました。今日では、宇宙事業における技術の革新と新たな関連ビジネスの興隆、メディア事業における多種多様な動画配信サービスとの競争の激化など当社を取り巻く環境の変化はますます激しくなっています。

この度、2020年度とその先を見据えた「プラン2020+」を発表いたしました。REPOWERING, REBUILDING, REBRANDINGを3本の柱に据えて改革を行うこのプランのもと、さらなる企業価値の向上を目指します。

REPOWERING コロナ禍を通して得た経験を生かして従業員の働き方を見直し、多様なライフスタイルとワーキングスタイルの両立によって従業員のモチベーションと生産性の向上を図る制度を導入いたします。

REBUILDING 宇宙事業では、競争優位性を生かしつつ、従来から進めている衛星からのデータ活用ビジネスへの展開に加えて、事業領域の拡大に挑戦します。メディア事業においては選択と集中を実行し、成果の出ている施策・事業に注力しながら、コンテンツのコアなファンとのあらゆる接点を通じてビジネス機会を周辺領域に展開してまいります。さらに、宇宙とメディアをビジネス領域として併せもつ極めてユニークな事業体としての独自性を追求し、企業価値向上のため、唯一無二のスカパーJSATらしさを具現化したビジネス開発に注力します。

REBRANDING 宇宙ビジネスが注目されている今の好機を逃さず、30年にわたる衛星運用実績と、多様なエンターテイメントをお届けするメディアの力を掛け合わせた当社のもつ独自の魅力と可能性を、対外的により広くアピールしてまいります。

今後とも、スカパーJSATグループへの変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 **米倉 英一**

衛星調達

カバーエリアでの需要予測と軌道位置の確保から始まり、衛星の仕様を検討、メーカーを選定し発注します。製造開始後は、工程管理・性能評価を実施。打ち上げサービスについても選定作業を行い、衛星の静止軌道への投入を行います。衛星一機の発注から打ち上げまでは約2~3年かかります。

衛星運用・回線運用

スカパーJSATの通信衛星は、衛星管制センターが地上からコントロールします。通信衛星の健康状態を確認するヘルスチェックのほか、軌道制御、姿勢制御、衛星回線の監視などを24時間体制で行います。主局の被災や機器故障時でも運用を継続できるよう、副局も設けています。



Our Business

スカパーJSATは、放送と通信を融合したサービスを提供する日本で唯一、アジア最大の衛星通信事業者です。加入者数約300万件を誇る「スカパー！」を通じ多種多様なエンターテインメントをお届けし、日本・アジア・オセアニア・ロシア・中近東・ハワイ・北米をカバーする衛星で、「社会の安心・安全」を支えています。

メディアセンター運営

放送事業者から送られる番組や、センター内で送出した番組にデジタル圧縮処理を行い、電子プログラムガイドなどを多重化し衛星に向け送信します。3つのスタジオと番組制作機能を有するほか、オンデマンドサービス・衛星中継・設備開発・放送運行などさまざまな役割を担います。

カスタマーセンター運営

加入、変更、ご質問やご要望など、お客様とのさまざまなコミュニケーションをマルチチャンネルで担っています。人による高い接客力とAIなど先端テクノロジーの融合で実現した「スマートコンタクトセンター」は、外部機関HDIの調査でも三つ星を獲得しました。さまざまな業種業界のお客様窓口のサポートも積極的に事業化していきます。

メディア事業 スカパー!

国内ビジネス領域

災害に強い衛星通信の特長を生かし、全国自治体や電力・ガスなどライフラインを担う企業に、災害対策・BCPに適したサービスを提供します。また、現場からの映像伝送や全国一斉配信など、さまざまな用途に利用されています。

グローバルビジネス領域

アジア・オセアニア・中近東・ロシアなどへの衛星回線提供や、インテルサット社とのHorizons共同事業を行っています。新規衛星打ち上げによるカバーエリア拡張、軌道上衛星の効率化や利活用でさらなる拡大を目指します。

移動体ビジネス領域

船舶・航空機向けの通信需要に対し、積極的にビジネスを展開しています。また、インマルサットグループなどとの共同出資によるJSAT MOBILE Communications(株)を通じ、さらなる拡大を目指します。

新規ビジネス領域

●低軌道衛星向け地上局サービス
低軌道衛星は、技術発展に伴う衛星の小型化や、廉価な衛星打ち上げサービスの拡大を背景に、革新的成長を遂げています。スカパーJSATは、アジア最大の衛星通信事業者として、また30機以上の静止衛星の管制・運用で培った技術力や経験をベースに、低軌道衛星ビジネスに取り組んでいます。

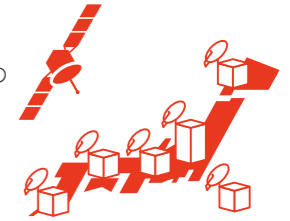
●情報サービス
海・地上・空・宇宙からのデータ分析で得られた情報を提供し、さまざまなビジネスシーンでの意思決定をサポートします。お客様の新たな気づきを掘り起こし、当社インフラを利用した情報ソース活用を提案します。

衛星通信サービスの特長

MERIT ① 広域・同報性

主な利用分野

- スカパー!の番組伝送
- 地上波テレビ局、CATV局の番組伝送
- 遠隔地の監視・制御など



MERIT ② 柔軟性

主な利用分野

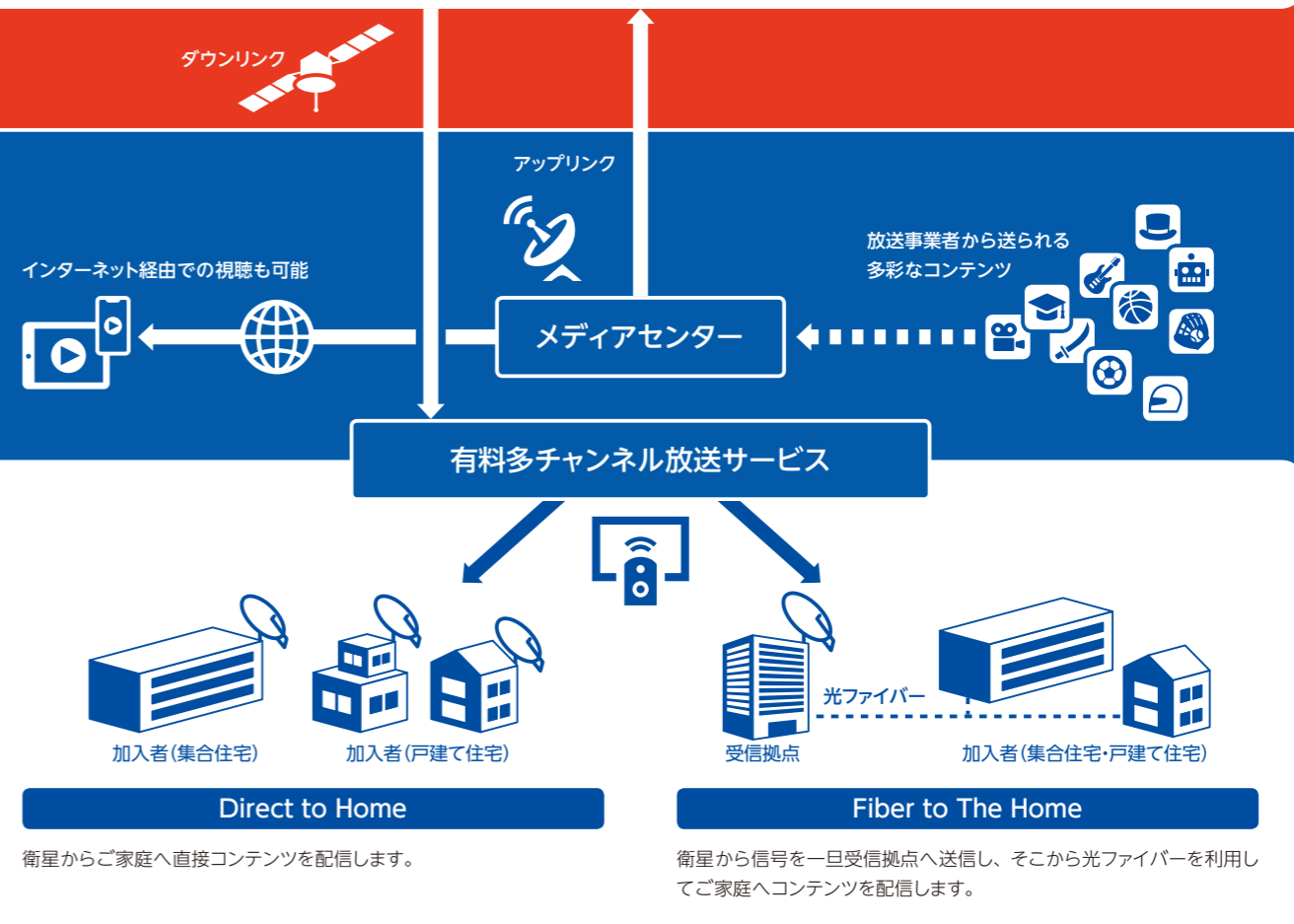
- 航空機・船舶など移動体における高速インターネット接続環境の提供
- 通信インフラ不足の国や地域での衛星電話や通信サービスの提供



MERIT ③ 耐災害性

主な利用分野

- 一般企業や自治体のネットワーク
- 電力・ガス・石油などのライフライン企業のネットワーク
- 重要拠点のバックアップ回線



- 主にメディア事業に利用
- 主に宇宙事業に利用

	JCSAT-110A	JCSAT-110R	JCSAT-4B	JCSAT-3A
軌道位置	東経110度	東経110度	東経124度	東経128度
打上日(日本時間)	2016/12/22	2011/8/7	2012/5/16	2006/8/12
打上ロケット	Ariane5	Ariane5	Ariane5	Ariane5
衛星バス	SSL1300	A2100A	A2100AX	A2100AX
周波数帯域	Ku band	Ku band	Ku band	Ku band C band
主なカバーエリア	● Ku: 日本、インド洋、オセアニア	● Ku: 日本	● Ku: 日本、東南アジア、2つの可動ビーム	● Ku: 日本、可動ビーム ● C: アジア、ハワイ、ロシア

JCSAT-5A	JCSAT-6	JCSAT-17	Superbird-C2	JCSAT-1C
東経132度	東経136度	東経136度	東経144度	東経150度
2006/4/13	1999/2/16	2020/2/19	2008/8/15	2019/12/17
Zenit-3SL A2100AX	Atlas2AS Boeing 601	Ariane5ECA LM2100	Ariane5 DS2000	Falcon9 Boeing 702[HTS]
Ku band C band S band	Ku band	S band C band Ku band	Ku band	Ku band Ka band
● Ku: 日本 ● C: アジア、ハワイ、ロシア	—	—	● Ku: 日本、アジア、可動ビーム	● Ku: アジア、太平洋、ロシア

お客様のニーズに合った軌道位置・衛星仕様を生かし、事業の拡大を図ります。

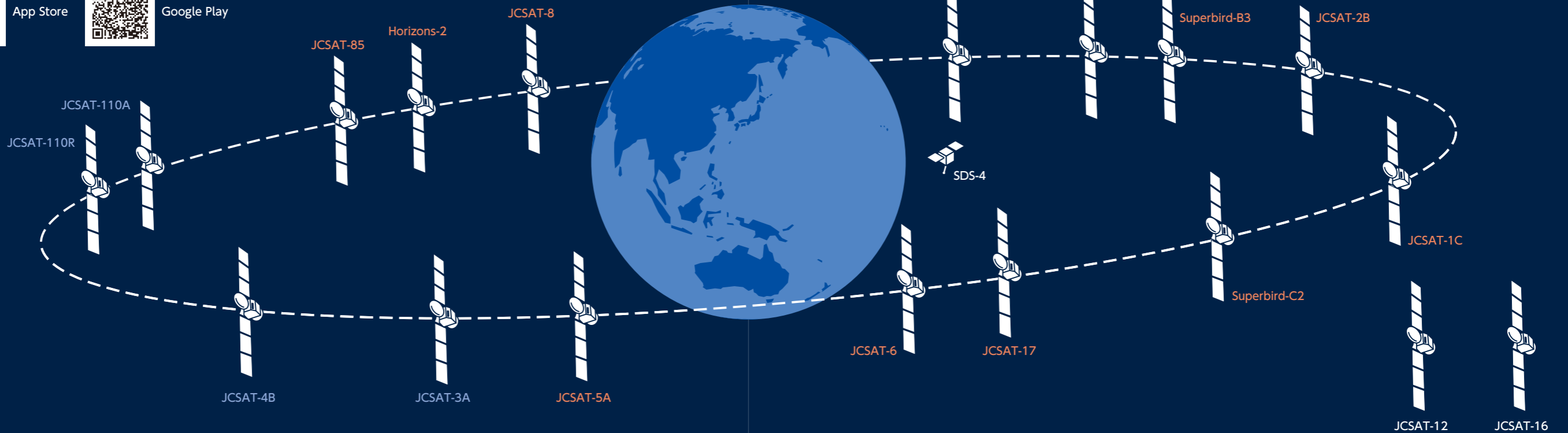
アジアで最多の通信衛星とインテルサット社とのパートナーシップにより、グローバルな衛星通信サービスを提供しています。

各衛星の詳細な情報は、JSAT Satellite Viewerからご覧ください。



App Store

Google Play



	JCSAT-2B	Superbird-B3	Horizons 3e	Horizons-1
軌道位置	東経154度	東経162度	東経169度	西経127度
打上日(日本時間)	2016/5/6	2018/4/6	2018/9/26	2003/10/1
打上ロケット	Falcon9	Ariane5	Ariane5	Zenit-3SL
衛星バス	SSL1300	DS2000	Boeing 702MP[HTS]	Boeing 601HP
周波数帯域	Ku band C band	Ku band Ka band	Ku band C band	Ku band
主なカバーエリア	● Ku: 日本、アジア、太平洋 ● C: ロシア、アジア、オセアニア、グローバル	● Ku: 日本、可動ビーム	● Ku: アジア、オセアニア、太平洋 ● C: 日本、オセアニア、ハワイ、アラスカ	● Ku: 北米、ハワイ

Horizons-2	JCSAT-85	JCSAT-8	JCSAT-12	JCSAT-16
東経85度	東経85度	—	—	—
2007/12/22	2009/12/1	2002/3/29	2009/8/22	2016/8/14
Ariane5 STAR-2	Zenit-3SLB STAR-2	Ariane4 Boeing 601	Ariane5 A2100AX	Falcon9 SSL1300
Ku band	Ku band	Ku band C band	Ku band C band	Ku band Ka band
● Ku: ロシア	● Ku: 日本、アジア、インド洋、中東	—	—	—

2020年6月30日現在

※HTS: ハイスループット衛星。従来型衛星に比べ伝送容量を大幅に拡張した衛星のこと。



宇宙から海洋まであらゆる空間をビジネスフィールドとし、災害時のバックアップ回線や、航空機・船舶向けインターネット回線などさまざまな衛星通信サービスを提供しています。



こちらから詳しい情報をご覧ください

スカパーJSATが展開する宇宙事業は、皆様のビジネスや毎日の生活をより便利に、より豊かにするサポートをしています。さまざまな場面で活躍している当社サービスをご紹介します。

VSAT(超小型地球局)サービス



防災プラットフォームサービス

利用用途

- インフラ企業内拠点間(本店・発電所・運航管理室など)の重要通信回線バックアップ
- ガスパイプラインの流量監視・制御 など



衛星IPネットワークサービス

利用用途

- 企業内拠点間の通信回線バックアップ
- 災害医療のBCP対策
- 山間・僻地でのクラウドアクセス(インターネット利用) など



IP映像伝送サービス

利用用途

- 報道取材現場からのリアルタイム映像伝送
- 報道取材現場のホットスポット化
- 地上携帯網の伝送路補完 など

配信サービス



衛星マルチキャスト配信サービス

利用用途

- 遠隔教育
- 社内放送・講義映像配信
- イベント・ライブ中継 など



緊急地震速報衛星配信サービス

利用用途

- 工場・プラントの自動制御、館内放送による早期避難
- ビル管理・エレベーター・病院 など

情報サービス



情報サービス[Spatio-ID](スペイシオアイ)

利用用途

- 船舶検知
- 河川堤防、空港、港湾施設などのインフラ変位モニタリング
- サプライチェーン可視化
- 災害状況把握 など

移動体通信サービス



海洋ブロードバンドサービス

利用用途

- 船陸間の業務利用
- 客船のお客様による回線利用 など



航空機向けサービス

利用用途

- 航空機内でのWi-Fi回線利用 など

低軌道衛星向け地上局サービス



利用用途

- コマンド送信
- テレメトリデータ受信
- ミッションデータ受信 など

衛星回線サービス

利用用途

- 国内・海外向け衛星通信サービス
- 衛星放送専用サービス(スカパー!)など



1996年10月に日本初のデジタル放送としてスタート。
現在は国内唯一のCSデジタル放送を運営するプラットフォーム事業者として、
有料多チャンネル放送サービス「スカパー！」を運営し、
300万件を超える加入者の皆様にご利用いただいています。



こちらから詳しい情報をご覧ください

スカパーJSATが提供している「スカパー！」は、ひとりでも多くの方々にお楽しみいただくために、
衛星、光ファイバー網、インターネットを利用した多彩な視聴形態でサービス展開をしています。

<p>基本プランが好評! すぐにスカパー!を楽しめるサービス</p> <p>スカパー! サービス</p> <p>80チャンネル ハイビジョン 58チャンネル 4K 9チャンネル 標準画質 13チャンネル</p> <p>アンテナ不要の 光ファイバーを使ったサービス</p> <p>スカパー! プレミアムサービス光</p> <p>142チャンネル ハイビジョン 141チャンネル 4K 1チャンネル デジタルラジオ 100チャンネル</p>	<p>専用チューナーと専用アンテナでお楽しみいただける、 チャンネル数・画質共に充実のサービス</p> <p>スカパー! プレミアムサービス</p> <p>144チャンネル ハイビジョン 143チャンネル 4K 1チャンネル デジタルラジオ 100チャンネル</p> <p>スマートフォン・PC・タブレットなどで 視聴できるサービス</p> <p>スカパー! on demand</p> <p>78チャンネル</p>
--	--

2020年6月30日現在

「やっぱり、プロ野球だ。」

新型コロナウイルスの影響で開幕が延期となったプロ野球が、2020年6月19日に開幕となりました。開幕までの間は、少しでも楽しんでいただけるよう練習試合中継や過去の名試合のプレーバックなどの野球関連コンテンツをお届けしました。
また、無観客での開幕戦となったため、球場に行けなくてもみんなで楽しめる企画として「#みんなで始球式」を実施。ファンの投球映像をつないだCMを制作しました。
スカパー!では、これからもプロ野球とファンをつなぐための積極的なファン・マーケティングを実施していきます。



スカパー!×ブンデスリーガ

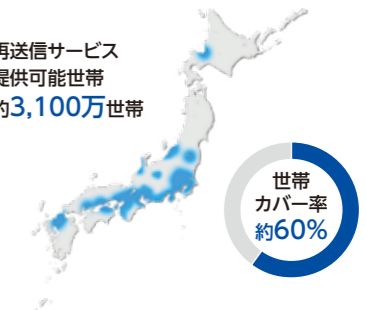
すでに18/19シーズンから2シーズン目の放送・配信を行っているドイツのブンデスリーガと、今回新たに24/25シーズンまでの5シーズンの権利を更新しました。
ブンデスリーガは欧州主要リーグの中では最多の平均観客動員数と平均ゴール数を誇る熱狂的なリーグで、今回の契約はこれまでの放送権・配信権に加え、共同マーケティングも含めた強固なパートナーシップ契約となっています。ブンデスリーガのクラブを日本に招聘したプレシーズンマッチの開催など、ブンデスリーガの魅力を十分に生かしたさまざまなビジネスを日本国内で展開していく予定です。



光回線 (FTTH) テレビ再送信サービスの拡充

スカパー!は、各ご家庭のテレビに衛星放送だけでなく、光回線 (FTTH) を経由した地デジ・BS再送信サービスも提供しています。アンテナの設置不要で地デジ・BSならびにスカパー!をお楽しみいただけるこのサービスは、2019年9月からNHKのBS8Kチャンネルを含む新4K8K衛星放送の全チャンネルを視聴可能としました。サービス提供可能世帯は約3,100万世帯、契約数は233万世帯 (2020年3月31日現在) です。
今後もサービスエリア拡大によるFTTHテレビ再送信サービスの契約増加とともに、光回線経由のスカパー!の加入者の拡大を目指します。

再送信サービス
提供可能世帯
約3,100万世帯



事業を通じた社会課題解決

スカパーJSATグループは、
事業を通じて人々の暮らしに安心や快適さ、
楽しさをお届けすることで持続的な成長を目指します。

革新的な情報通信インフラの提供によりレジリエントな社会や地域社会の発展、
環境保全などの実現に取り組むほか、地域・社会の一員として、
ステークホルダーとの協働により、より豊かな社会の実現に寄与してまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



スカパーJSATグループは、事業活動を通じて
SDGs目標の達成に取り組んでいます。

SDGsとは

[Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)]の略称。2015年9月の国連総会で採択された「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」(Transforming our world:the 2030 Agenda for Sustainable Development)で示された、2030年に向けた全世界共通の具体的な行動指針。2015年までの達成を目指したミレニアム開発目標(MDGs)を継承し、2030年までの長期的な開発指針として、17の目標と各目標に付随する169のターゲットが設定されています。



社会



事業継続計画(BCP)支援

災害に強い衛星通信の特長を生かしたサービス

スカパーJSATでは、衛星通信の特長である「耐災害性」を生かしたサービスを長きにわたり提供してきました。ExBird(エックスバード)サービスやEsBird(エスパード)サービスは、当社の代表的なBCP支援サービスです。災害などで地上回線が切断されるような状況でも信頼性の高いネットワークを確保できるサービスとして、多くのお客様にご利用いただいています。

2011年の東日本大震災の際には、通信衛星による緊急ネットワークを構築し、政府・公共機関・報道機関などの通信を支えました。また、自治体の災害対策本部や避難所でのブロードバンド環境整備にも全力をあげ衛星回線を無償提供するなど、復旧・復興支援に尽力しました。



被災地で衛星通信のアンテナを設置する様子

レジリエンス認証取得

スカパーJSATは通信・放送という公共性の高い事業を営んでいることから、災害などの非常時に期待される役割と責任を強く認識しています。

2016年にレジリエンス認証を取得し、役職員とその家族の安全・安心を最優先とした上で、二次災害の防止に努めること、ステークホルダーへの影響を最小限に止めること、業務の早期復旧・継続を図り、経営への影響を最小限に止めることを方針として掲げ、この方針のもと、事業毎に非常時に継続する業務をあらかじめ定め、日頃から高いBCP意識をもって対策に取り組んでいます。



レジリエンス認証
認定・登録番号G0000004

政府総合防災訓練への衛星通信サービスの無償提供

政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練において、厚生労働省DMAT事務局(災害派遣医療チーム)からの要請を受け、2015年以来、衛星通信サービスExBird(エックスバード)を無償で提供しています。この訓練では、地上回線が遮断された場合を想定し、ExBirdを使って衛星経由のインターネット回線および音声通信回線を提供し、EMIS(広域災害・救急医療情報システム)へのアクセスや音声通話を早期に使用可能にしました。



政府総合防災訓練の様子

ExBird可搬衛星通信局

特務機関NERV災害対策車両の共同製作

ゲヒルン株式会社・三菱自動車工業株式会社と共に、防災情報配信サービスの継続と、近隣自治体への支援を目的とした災害対策車を共同製作しました。スカパーJSATは、衛星通信の強みである「耐災害性」「広域性」「柔軟性」の3要素を備えたインターネット接続サービスを提供。衛星通信の耐災害性に加え、移動時の通信という機動性も確保でき、BCPや人命救助活動などでの利用が期待されています。



特務機関NERV災害対策車両



情報・インフラ



情報サービスの提供拡大

「Spatio-i」による、防災・減災などの情報サービス提供
 昨今、国内および海外において、河川堤防、空港・港湾施設、道路、鉄道軌道、鉄塔などのインフラ老朽化により重大事故リスクが顕在化し、維持管理費用も高騰しています。さらには、台風などによる大規模災害リスクの増加が社会課題となっています。
 スカパーJSATでは、光学画像・SAR画像・位置情報などのさまざまな地理空間情報と各分野にカスタマイ

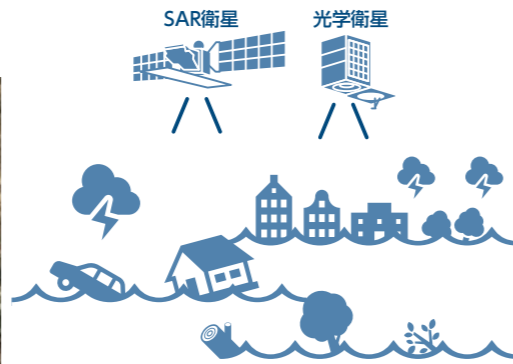
ズしたAI分析を組み合わせた情報サービス「Spatio-i」(スペイシオ-アイ)を提供しています。防災・減災をはじめとするさまざまな情報サービスの提供で、お客様に安心・安全・快適をお届けします。



こちらから詳しい情報をご覧ください



例：台風19号による洪水被害状況把握(河川氾濫域を緑色に着色)



産学連携でのAI研究開発

「気象データ・天球くも画像×AI」で、
エネルギー・地球環境の課題解決へ

AIの研究開発は、衛星通信回線を利用した船舶気象観測の自動化と海上気象の見える化を目的とする研究開発の一環で開発された、雲観測AIのKMOMY(くもみ)から始まりました。このくもみAI*を使って、楽しみながら気象や地球環境について学べるアプリ「くもろぐ」が誕生しました。

さらに、未来の日射量を予測するAIのSolarMi(そらみ)の研究開発を開始し、次々と新しい価値を創造しています。そらみAI*は、天候に左右される太陽光発電の出力を予測し、再生可能エネルギーの安定的な活用の実現に貢献します。

※くもみAIは神戸大学大学院海事科学研究科大澤輝夫教授との共同研究、
 そらみAIは大阪大学大学院基礎工学研究科松原崇准教授との共同研究でそれぞれ開発を進めています。

くもろぐ
 SolarMi

天球画像により日射量を予測する「そらみ」

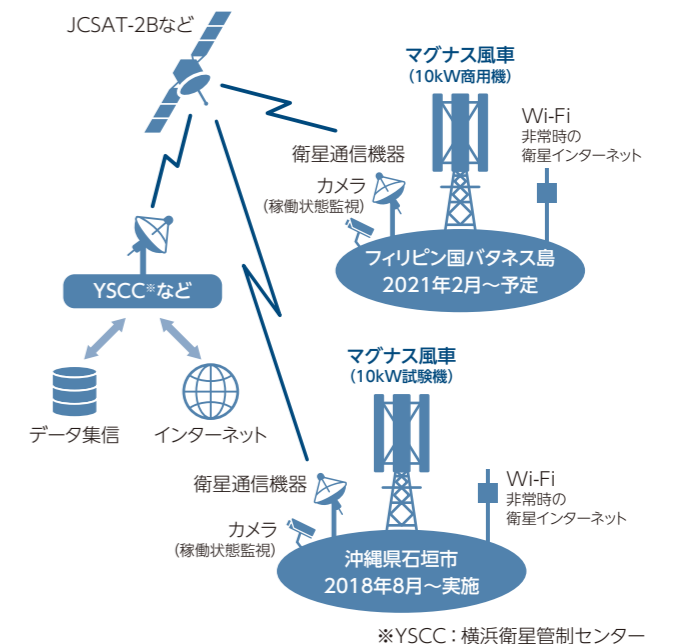
気象・防災知識、環境への意識を向上させる「くもろぐ」

こちらから詳しい情報をご覧ください

衛星通信と再生可能エネルギーでSDGs達成貢献ソリューション

風力発電と衛星通信で、世界の離島・山間部での電力・通信サービス提供を目指しています

スカパーJSATは衛星通信の特長を生かして離島・山間部などのデジタルデバインド地域への高度な通信サービスの提供や、大規模災害後の災害復興での衛星回線の提供などを行ってきましたが、それには地上の通信機器を稼働させる電源の確保が欠かせませんでした。株式会社チャレナジーが開発中の「垂直軸型マグナス式風力発電機」(以下、マグナス風車)は、荒天下ではもとより、強風・乱流下でも事故・故障なく安定した発電が可能。環境負荷の大きいディーゼル式発電に頼らざるを得なかった離島・山間部などの未電化地域での活躍が期待できます。当社の通信衛星とマグナス風車を活用することで、デジタルデバインド地域の解消を推進し、あらゆる地域・人々への「不便が快適に変わる生活」の提供に向けた取り組みを両社で進めていきます。

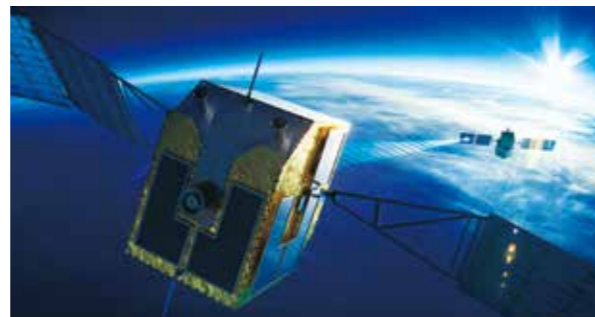


宇宙のSDGs

世界初！宇宙ごみをレーザーで除去する衛星の設計・開発に着手

次世代ビジネスを検討する社内のスタートアップ制度から生まれた「デブリ除去プロジェクト」は、理化学研究所・JAXA・名古屋大学・九州大学との連携により、宇宙ごみ*をレーザーで除去する衛星の設計・開発に着手しました。

宇宙ごみは人類が宇宙に進出してから、年々増え続けています。将来さらに衛星を利用したサービスが拡大されると、この問題は深刻さを増していきます。さまざまな宇宙ごみ除去手法が提案される中、私たちはレーザー方式を採用しました。その理由は、接触しないため安全性が高く、宇宙ごみから推進力を引き出すこと



で移動させる燃料が不要となり、経済性も高いからです。30年以上宇宙を利用したサービスを提供してきた、スカパーJSATの宇宙への恩返しとして取り組む本事業は、2026年のサービス提供開始を目指しています。
 ※当社では、宇宙に漂うデブリ(スペースデブリ)を、宇宙ごみと呼んでいます。

教育



多様な文化や習慣の理解促進

スカパー!サービスを通じた教育への貢献

スカパー!で放送しているドキュメンタリーチャンネルは、文献や科学的検証に基づき制作されています。そのため、世界中のさまざまな歴史・不思議なできごと・動物・宇宙の仕組みや最新の科学などの知識も深められる、魅力的な番組の提供を可能にし、多様な文化や習慣の理解促進に役立っています。



ディスカバリーチャンネル「解明・宇宙の仕組み」
© Discovery Communications, LLC

教育支援

東南アジア教育環境向上への貢献 (通信環境および教育環境の提供)

「東南アジア教育支援プロジェクト」では、スカパー!の会報誌やSNSの公式アカウント、「BSスカパー!」放送内でのコマーシャルなどの媒体を通じて寄付を募り、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が行う世界寺子屋運動を通じて、カンボジアでの寺子屋建設に貢献しました。2018年には、ミャンマーでの事業パートナーである情報通信事業者Southeastasianet Technologies Myanmar Co., Ltd. (SEANET) との協働により、教育団体Monastic Education Development Groupが運営する寺子屋のうち、ミャンマー第2の都市マンダレーおよびシャン州にある3か所の寺子屋にVSAT (超小型地球局) を設置し、衛星通信を利用した教員向け遠隔研修プログラムの提供を始めました。2019年にはInteractive Onsite Learningシステムにより本部と拠点をつないだ授業も実現しました。



カンボジアのポンゴロ・クラオム寺子屋



次世代育成プロジェクトの一環として、 「科学の甲子園」へ協賛

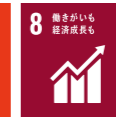
全国の中高生が都道府県を代表し科学の思考力・技能を競う「科学の甲子園」(国立研究開発法人科学技術振興機構主催)の協働パートナーとして、2016年より本大会に協賛しています。大会中の実技競技では、優れた工作デザインを発表した都道府県代表チームに「スカパーJSAT賞」として表彰を行っています。

また、競技終了後にはエキシビションを開催しています。当社役職員が講師となり、人工衛星の仕組みや宇宙に関するクイズや課題を交え、スカパーJSATの「仕事」を通して、生徒たちの将来や職業観を広げるキャリア教育支援を実施しています。さらに、協賛だけでなく大会の模様をスカパー!公式YouTubeで配信するなど、大会の認知向上にも貢献しています。



科学の甲子園エキシビション

働き方改革・制度



働きやすい職場環境に向けて

次世代育成支援対策推進法への取り組み

次世代育成支援対策推進法に基づいて策定した一般事業主行動計画に取り組んでいます。2013年には、男性社員の育児休業推進などの取り組みが認められ、東京労働局から基準適合一般事業主認定を受け、認定マーク「くるみん」(「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受けた証)を取得し、継続して次世代育成支援に積極的に取り組んでいます。

女性活躍推進法、育児・介護休業法への取り組み

2016年4月施行の女性活躍推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定しています。女性の活躍をより一層推進していくために、出産・育児休暇からの復職者に対するキャリア形成支援を充実させていきます。また、2017年の育児・介護休業法改正後、育児休業規程や介護休業規程を定めました。社員が子育てや介護をしながら仕事と家庭を両立しつつ、持てる力を十分に発揮できる環境整備を進め、育児休業からの

復職率も100%です。さらに復職後の社員が時間的制約などを乗り越え働きやすい環境を整えるため、育児短時間勤務、ベビーシッター利用料の補助などの施策を拡充しました。

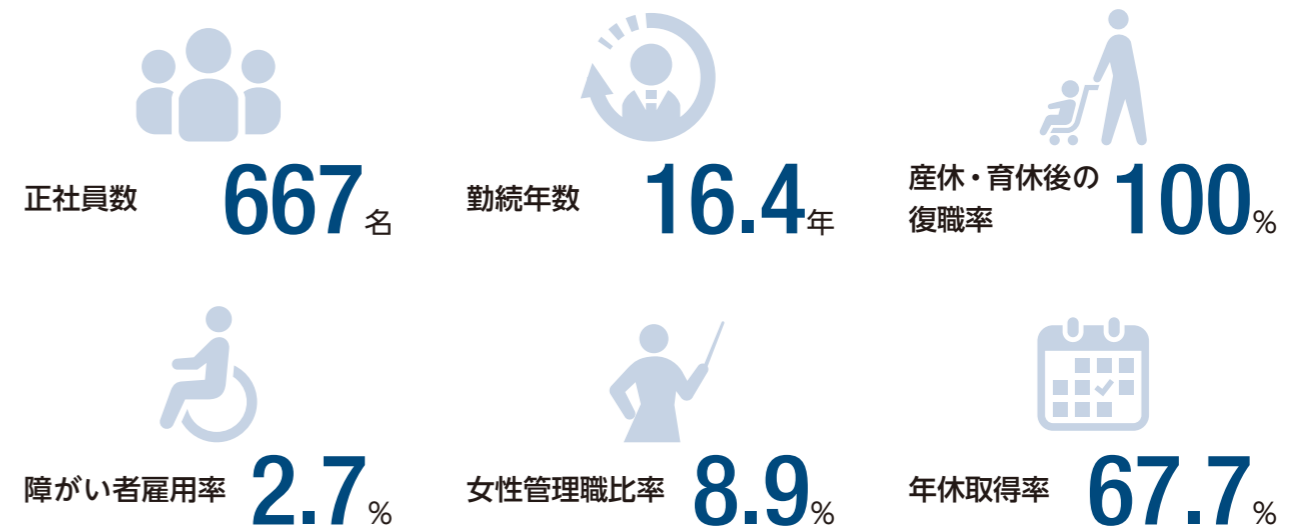
在宅勤務制度の推進

社員の働き方裁量の幅を広げる在宅勤務制度を導入しています。内閣府提唱の「働き方改革実現会議」を受け、社員一人ひとりの生産性向上を重要なテーマとして掲げ、これを実現する手段として柔軟なワークスタイルを整備しました。

2019年の夏にはオリンピック開催に備えた働き方改革の国民運動である「テレワーク・デイズ2019」の取り組みに参加し、さらなるテレワークを推進しました。また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2020年2月末より原則全役職員を対象として在宅勤務を実施し、サービスの提供を継続しました。社員の自律性・自発性促進、ワークライフバランス充実を目指します。

従業員データ

(スカパーJSAT株式会社単体 2020年3月31日現在)

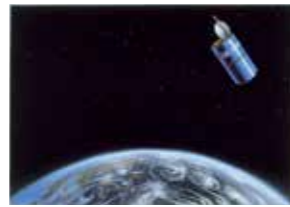


スカパーJSATグループのあゆみ

平成元年(1989年)3月に日本初の民間通信衛星JCSAT-1、6月にはSuperbird-Aが打ち上げられ、「平成元年」は「衛星元年」になりました。1996年には通信衛星を利用した日本初のCSデジタル放送「パーフェクTV!」の放送を開始しました。そして2008年、(株)スカパーフェクト・コミュニケーションズ、JSAT(株)、宇宙通信(株)が合併し、スカパーJSAT(株)が誕生しました。2018年に策定されたグループミッション「Space for your Smile」のもと、新しい事業領域の開拓に挑戦していきます。

1985
●市場ゼロからの壮大なチャレンジ。日本初の民間の衛星通信事業の立ち上げ

1989
●日本初の民間通信衛星「JCSAT-1」の打ち上げ



1995
●日本初の衛星デジタル多チャンネル放送用通信衛星「JCSAT-3」の打ち上げ

2003
●PanAmSat Corporation (現Intelsat S.A.)との共同衛星「Horizons-1」を北米上空に打ち上げ。米国でサービス開始



1985
宇宙通信(株)設立
日本通信衛星(株)設立
(株)サテライトジャパン設立

1993
日本通信衛星(株)、(株)サテライトジャパン 合併
(株)日本サテライトシステムズ設立

2000
社名を「JSAT(株)」に変更

2007
経営統合
持株会社である、スカパーJSAT(株)*設立
同日、東証1部新規上場(4月2日)

1994
(株)ディーエムシー企画設立
1995年、事業会社化し
日本デジタル放送サービス(株)に

1996
ジェイ・スカイ・ビー(株)設立

2000
社名を「(株)スカパーフェクト・コミュニケーションズ」に変更

2008
アジア最大の衛星通信会社スカパーJSATの誕生
(株)スカパーフェクト・コミュニケーションズとJSAT(株)と宇宙通信(株)が合併し、スカパーJSAT(株)が発足(10月1日)

※2008年、(株)スカパーJSATホールディングスに社名変更

メディア事業



1992
●日本初の受託衛星放送サービス(CSアナログ放送)の開始

1996
●日本初のCSデジタル放送「パーフェクTV!」本放送開始



1998
●セリエAの放送権を獲得

2002
●「スカパーフェクTV!」の加入者が300万件を突破
●110度CSデジタル放送サービス「スカパーフェクTV!2」本放送開始
●日韓共催「2002FIFAワールドカップ™」の全64試合を10チャンネルで放送

2004
●「スカパー!」対応光ファイバーTV「OPCAS」(現スカパー!プレミアムサービス光)サービス開始

2006
●Jリーグ(J1/J2)CS独占放送権取得

2008
●「スカパー!HD」サービス開始

2011
●新BSデジタル放送「BSスカパー!」開局
●「スカパー!オンデマンド」サービスの提供を開始

スカパー! ondemand

2014
●現地語による24時間放送チャンネル「WAKUWAKU JAPAN」インドネシアで開局

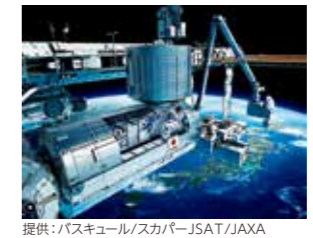
WakuWaku JAPAN

2017
●スカパー!ハイブリッドの提供を開始

2018
●新4K8K衛星放送の開始。スカパー!に9つの4Kチャンネル誕生。光回線でも視聴可能に
●スカパー!基本プランスタート。1台分の料分でテレビ3台まで追加料金なし



2019
●JAXA・バスキール・スカパーJSAT、「宇宙メディア事業」に向けた共創を開始



2020
●eスポーツ分野に注力した新会社を共同出資で設立
●ブンデスリーガ独占放送権・配信権獲得に加え、パートナーシップ契約を締結



2017
●Kymeta社と戦略的業務提携
●Orbital Insight社と代理店契約締結
●低軌道衛星向け地上局サービス開始

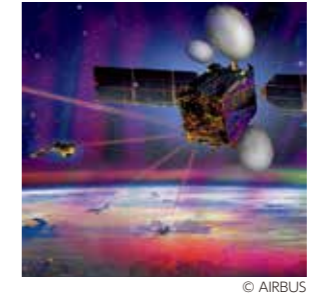
2018
●当社初のHigh Throughput Satellite(HTS)衛星「Horizons 3e」を打ち上げ
●雲観測AI KMOMY(くもみ)の開発によるスマホアプリ「くもろく」誕生



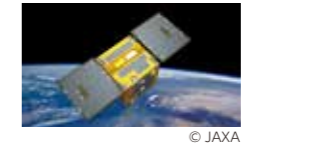
2010
●海洋ブロードバンドサービス「OceanBB」提供開始

2016
●航空機向けWi-Fi回線提供開始
●KSAT社と戦略的業務提携
●SNET、Planet社の高頻度衛星画像サービスの提供を開始

2019
●光データ中継事業の共同展開に向けてエアバス社と覚書を締結



●チャレナジー社と出資契約締結
●パスコ社と宇宙事業における業務提携
●JAXAより小型実証衛星4型「SDS-4」を譲受



●情報サービス「Spatio-i」始動
●HTS衛星2機目となる「JCSAT-1C」を打ち上げ



2020
●宇宙ごみ除去システム衛星の設計・開発に着手



会社概要

2020年7月30日現在

持株会社



株式会社スカパーJSATホールディングス

- 住所 〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目8番1号
- 電話番号 03-5571-1500(代表)
- 設立 2007年4月2日
- 資本金 10,000百万円

代表取締役会長	高田 真治
代表取締役社長	米倉 英一
取締役	仁藤 雅夫
取締役	福岡 徹
取締役	大松澤 清博
取締役	小川 正人
取締役(非常勤)	中谷 巖
取締役(非常勤)	飯島 一暢
取締役(非常勤)	小杉 善信
取締役(非常勤)	藤原 洋
取締役(非常勤)	大賀 公子
監査役	西村 至
監査役	小川 晃
監査役(非常勤)	高橋 勉
監査役(非常勤)	大友 淳

事業会社



スカパーJSAT株式会社

- 住所 〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目8番1号
- 電話番号 03-5571-7800(代表)
- 設立 1994年11月10日
- 資本金 50,083百万円

- 拠点
 - スカパー東京メディアセンター 東京都江東区
 - 横浜衛星管制センター 神奈川県横浜市
 - 茨城ネットワーク管制センター 茨城県常陸大宮市
 - 山口ネットワーク管制センター 山口県山口市
 - 北海道ネットワーク管制センター 北海道千歳市
 - 沖縄ネットワーク管制センター 沖縄県糸満市
 - 香港支店
 - ジャカルタ駐在事務所

代表取締役 執行役員会長	高田 真治
代表取締役 執行役員社長	米倉 英一
取締役 執行役員副社長	仁藤 雅夫
取締役 執行役員副社長	福岡 徹
取締役 執行役員専務	大松澤 清博
取締役 執行役員専務	小川 正人
特命執行役員	川西 将文
執行役員常務	古屋 金哉
執行役員	赤尾 充敏
執行役員	青木 一彦
執行役員	手塚 久
執行役員	松谷 浩一
執行役員	飯田 周一
執行役員	笹沼 満
執行役員	小松 大実
執行役員	美谷 衛
執行役員	谷口 浩司
執行役員	石井 満
執行役員	森合 裕
執行役員	奥永 孝仁
監査役	西村 至
監査役	小川 晃

グループ会社



■ メディア事業 ■ 宇宙事業	議決権の所有割合は間接保有を含みます。	
資本金	事業内容	議決権の所有割合
50,083百万円	メディア事業および宇宙事業	100.0%
100百万円	有料多チャンネル放送ほか、さまざまな業種業態のカスタマーセンター	100.0%
1,600百万円	地球観測画像データ、ネットワークサービス、システムインテグレーション	92.0%
946百万円 (資本準備金含む)	産業用無人機設計、製造、販売	100.0%
375百万円 (資本準備金含む)	移動体衛星通信サービス業	53.3%
25百万USDドル	北米・ロシア・アジア太平洋向け衛星回線販売事業	100.0%
2,500百万円	コンテンツの企画・制作、4K HDR中継車貸し出し含む、技術支援および番組提供	100.0%
10百万円	衛星基幹放送業務、衛星一般放送業務	100.0%

